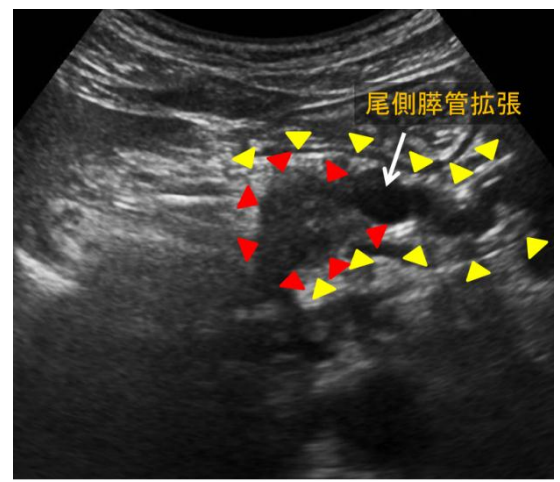


血流信号を伴う13×6mmの腎嚢胞内結節(腎細胞癌)

▲:嚢胞内結節、↓:検出された血流信号



膵体尾部に主膵管拡張を伴う充実性腫瘤(浸潤性膵管癌)

黄▲:膵臓辺縁、赤▲:充実性腫瘤

ここまで述べれば超音波検査は非常に優れた検査に聞こえますが、臓器の全く見えない体表から超音波を投入し、得られた反射信号を見ながら異常を“探す”という走査が必要なため、検査担当者の知識や経験により得られる情報に差が生じるという問題があります。実際は検査の技量や受診者の体型などによる見落としや描出不良により施設間差や検査間差が極めて大きい検査であるのも事実です。これらの差をできるだけ小さく、かつ高水準にするため当院では外部勉強会にも積極的に参加し、部内でも定期的な勉強会を開催しており、精度保証に尽力しております。

当院は今後も超音波検査に力を入れてまいりますので、経過観察や精査など、より一層のご紹介・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

健康講座を開催しました

9月19日(木)当院大会議室において、第3回健康講座「侮れない脂肪肝～“メタボ肝がん”が増加しています～」消化器内科診療部長 高見史朗が講義を行いました。当日は50名を超える皆様が参加され、高見医師からは、当院の健診センターにおいて腹部超音波検査を受けられた4人に1人は脂肪肝を指摘されていること、脂肪肝により糖尿病の悪化や動脈硬化・肝臓がんになる可能性などが資料を基に詳しく説明され、タイトルどおり『脂肪肝は侮れない!!』との認識を深めていただけたのではないかと思います。その他にも、脂肪肝と指摘された後はどうすればよいか?についても講義が行われ、参加者の皆さんは講義資料にメモを取りつつ真剣に耳を傾けておられました。



当院、内田祐代主査が摂食嚥下障害認定看護師の資格を取得しました!



今年度より摂食嚥下障害看護認定看護師として脳神経内科病棟に所属し、病棟スタッフと共に日常の場面での看護実践を行い、週1回NST・摂食嚥下チームと共に栄養・嚥下機能評価を中心とした活動をしています。

食べることは人間の基本的欲求の一つであり、生命維持だけでなく、楽しみを与え人生を豊かにしてくれます。食べたいと思う患者様に的確な評価を実施し“できる限り安全に”“できる限り長く”食を楽しめる環境を提供していきたいと思っております。